



環境経営レポート

2023年度版

対象期間： 2023年3月1日 ～ 2024年2月29日

対象事業所： 本社・工場

2024年5月31日 発行



佐渡精密株式会社

目次

1. 組織の概要	-----	1
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	-----	3
3. 環境経営方針	-----	4
4. 環境経営目標と達成状況	-----	5
5. 環境経営計画と評価	-----	9
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	-----	10
7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-----	14
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	-----	15

1. 組織の概要

(会社の概要)

会社名	佐渡精密株式会社		
代表者	代表取締役社長 末武 和典		
所在地	本社・工場	〒952-1435 新潟県佐渡市沢根 23 番地 1	敷地：9,210 m ² 建屋：5,710 m ²
	金井工場 (対象外)	〒952-1206 新潟県佐渡市大和 645	敷地：9,665 m ² 建屋：580 m ²
	新潟工場 (対象外)	〒950-1237 新潟県新潟市南区北田中 497-9 戦略的複合共同工場内	敷地：8,392 m ² 建屋：2,880 m ² 当社：479 m ²
	長野営業所 (対象外)	〒386-0152 長野県上田市大屋 236-15 2 階 B	
環境管理責任者	経営革新課 次長 藤井 達也		
環境管理事務局	経営革新課 次長 藤井 達也 Tel:0259-52-6115 Fax:0259-52-6247		
設立年	昭和 45 年 (1970 年)		
資本金	1,100 万円		
従業員数	本社・工場：107 名 新潟工場：9 名 長野営業所：1 名 (2024/05/31 時点)		
事業内容	製造部	金属精密部品の加工・組立て	
	ビジネスソリューション課	FAX 機・コピー機・複合機等の販売・保守 事務機器・事務用品、・什器の販売 ATM の保守	

(事業規模の推移)

事業規模	単位	2019 年度 (H31/R01)	2020 年度 (R02)	2021 年度 (R03)	2022 年度 (R04)	2023 年度 (R04)
従業員数	(人)	99	102	109	113	117
売上高	(千円)	1,870,149	1,635,012	2,076,831	2,212,179	2,080,901
製造	(千円)	1,784,541	1,546,618	1,972,757	2,126,288	1,983,223
ビジネスソリューション課	(千円)	85,608	88,394	104,074	85,891	97,888
本社・工場 敷地	(m ²)	9,210	9,210	9,210	9,210	9,210

The site plan of the Nagaoka Plant includes the following labeled areas:

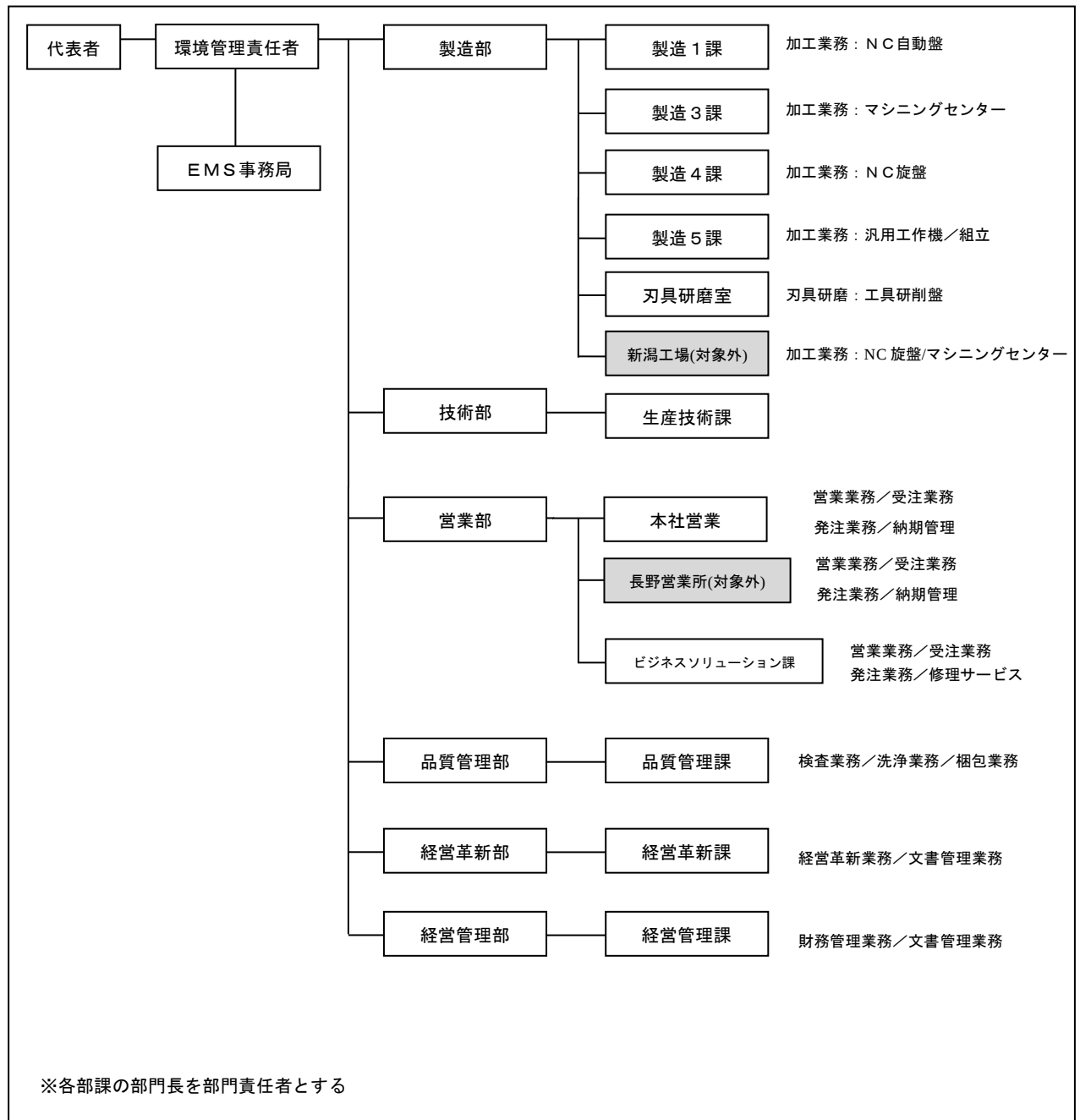
- 倉庫** (Warehouse) - Multiple locations at the top right.
- 組立加工** (Assembly/Processing) - Located near the top center.
- 事務所** (Office) - Located in the center right.
- 検査室** (Inspection Room) - Located on the far right.
- 第2工場 (NC複合旋盤)** (No. 2 Factory: NC Composite Lathe) - Located in the center.
- 第1工場 (NC旋盤)** (No. 1 Factory: NC Lathe) - Located below the No. 2 factory.
- 2次加工** (Secondary Processing) - Located on the right side.
- 第3工場 (NC旋盤)** (No. 3 Factory: NC Lathe) - Located at the bottom center.
- 第4工場 (マニピュレータ)** (No. 4 Factory: Manipulator) - Located on the left side.
- 精密加工室** (Precision Processing Room) - A yellow-shaded area within the No. 4 factory.

The plan also shows various roads, parking lots, and utility lines. A north arrow is present in the top left corner.

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

本社工場の全活動および全従業員（アルバイト、パートを含む）を対象とする。
また、本レポートの対象期間と発行日は 表紙に記載の通りである。

（環境活動実施体制図）



3. 環境経営方針

環境経営方針

《基本理念》

佐渡精密株式会社は、精密部品の加工・組立て、事務用機器の販売・保守業務を通じて、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動のあらゆる過程において環境への負荷低減及び地球環境の保全に配慮して行動する。

《基本方針》

1. 事業活動において、環境負荷を把握し、環境汚染の予防に努めるとともに、環境経営目標を定め、環境経営計画を策定し、環境経営システムの継続的改善を図ります。
2. 環境関連法規・条例・協定及び顧客要求事項及び、当社が同意する要求事項を順守し、必要に応じ自主基準を定め、環境の保全に努めます。
3. 当社の事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を考慮し、以下の項目に重点を置き環境保全活動を推進します。
 - (1) 省エネルギー、省資源の推進
 - (2) 一般廃棄物、産業廃棄物の削減
 - (3) 品質向上による環境負荷の低減
 - (4) 安全で快適な職場環境への推進
4. 当社は持続継続可能な開発目標「SDGs」を基本とした事業展開を行っていくことを忘れず、当社で対応可能な環境関連の目標を立て、しっかりと活動していけるよう全社員で取り組む。
5. 環境経営方針は、文書化し掲示すると共に、環境教育により、全従業員に周知し、環境保全に対する意識向上及び方針の実行を図るものとします。
また、環境経営方針が誰でも入手できるよう広報活動等により一般公開します。

平成19年07月28日 制定

令和03年05月31日 改定

佐渡精密株式会社

代表取締役 末武 和典

4. 環境経営目標と達成状況

(1) 目標

2022 年度を基準年度として、2023 年度から 2025 年度の三ヶ年の環境経営目標を下表の通りとした。なお、目標値は年度毎の達成状況、事業業績、事業予測等を勘案しながら、年度ごとに再設定する。

作成日：2023 年 5 月 1 日

作成者：藤井達也

環境目標項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		実績	目標	目標	目標
1) 二酸化炭素排出量の削減			前年比 2% 減	前年維持	前年維持
加工高千円当り二酸化炭素排出量	kg-CO2/千円	1.4314	1.4028	1.4028	1.4028
二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,154,319			
購入電力量	kWh	2,160,707			
ガソリン	L	10,413			
軽油	L	239			
灯油	L	1,532			
2) 水使用量の削減			22年度当時目標	前年維持	前年維持
1人当り水道使用量	m/人	0.88	0.85	0.85	0.85
水道使用量	m	1,085			
3) 廃棄物量の削減			前年比 3% 減	前年維持	前年維持
1人当り一般廃棄物量	kg/人	9.41	9.13	9.13	9.13
一般廃棄物量[普通ごみ]	kg	11,670			
加工高千円当り産業廃棄物量	mL/千円	16.62	16.62	16.62	16.62
産業廃棄物量[廃油]	L	13,400			
4) コピー用紙使用量の削減			前年比 2% 減	目標値維持	目標値維持
1人当りコピー用紙使用量	枚/人	249.19	244.21	244.21	244.21
コピー用紙使用量	枚	309,000			

注1) 電力の排出係数は東北電力 2019 年度 0.521 kg-CO2/kWh (調整後排出係数) を使用。

注2) 当社ではP R T R制度対象化学物質の使用が無いことから化学物質に関する目標を設定しない。

(2) 実績・結果

本年度の実績と結果を下表に記す。

結果：目標達成＝○ 未達成＝×

環境目標項目	単位	2023年度			
		目標 (*) 前年実績	実績	達成率 (*) 前年比	結果
1) 二酸化炭素排出量の削減					
加工高千円当り二酸化炭素排出量	kg-CO2/千円	1.4028	1.1811	118.77%	○
二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,154,319 (*)	929,428	80.52% (*)	
購入電力量	kWh	2,160,707 (*)	1,738,109	80.44% (*)	
ガソリン	L	10,413 (*)	8,684	83.39% (*)	
軽油	L	239 (*)	216	90.49% (*)	
灯油	L	1,532 (*)	1,273	83.07% (*)	
2) 水使用量の削減					
1人当り水道使用量	m ³ /人	0.85	0.85	100.00%	○
水道使用量	m ³	1,085 (*)	1,028	94.75% (*)	
3) 廃棄物量の削減					
1人当り一般廃棄物量	kg/人	9.13	8.49	107.54%	○
一般廃棄物量[普通ごみ]	kg	11,670 (*)	10,700	91.69% (*)	
加工高千円当り産業廃棄物量	mL/千円	16.62	16.52	100.61%	○
産業廃棄物量[廃油]	L	13,400 (*)	13,000	97.01% (*)	
4) コピー用紙使用量の削減					
1人当りコピー用紙使用量	枚/人	244.21	253.97	96.16%	×
コピー用紙使用量	枚	309,000 (*)	320,000	103.56% (*)	

注1) 電力の排出係数は東北電力 2019年度 0.521 kg-CO2/kWh (調整後排出係数) を使用。

(3) 達成状況・評価

本年度環境経営目標の達成状況と評価を各項目別に記す。

1) 二酸化炭素排出量

目標 1.4028 kg-CO₂/千円 に対し、1.1811 kg-CO₂/千円 となり、達成率 118.77% で目標をクリアできた。

前述の通り加工高が前年比 97.58% となったにも関わらず原単位での目標を大きくクリアしたのは、購入電力量が、前年比 80.44% (2,160,707 kWh → 1,738,109 kWh) と大きく減少したためで、要因として以下が考えられる。

- ・増設した太陽光発電設備 (157kW → 232kW) が 2023 年 3 月より稼働したこと
- ・逆流時のシステム動作を改善したこと

(工場の非稼働日に使用量と発電量の逆転が起こると発電システムがシャットダウンして、再稼働の際に手動でシステムを立ち上げなければならず、発電開始までに無駄なタイムラグが生じていたのを改善した。)

2) 水使用量

目標 0.85 m³/人 に対し、0.85 m³/人 となり、目標達成率 100.00% で目標をクリアした。
実際の使用量は、2022 年度 1,085 m³、2023 年度 1,028 m³ と減少している。

3) 廃棄物量

① 一般廃棄物 (普通ごみ)

目標 9.13 kg/人 に対し、8.49 kg/人 となり、目標達成率 107.54% で目標をクリアした。
従業員数が前年比 101.61% で増加しているのに対し、実際の廃棄量が 11,670 kg→10,700 kg と前年比 -970kg、91.69% と減少している。

② 産業廃棄物 (廃油)

目標 16.62 ml/千円 に対し、16.52 ml/千円 となり、目標達成率 100.61% で目標をクリアした。加工高は前年比 97.58% と減少しているが、廃棄量も 13,400 L → 13,000 L と前年比で 97.01% と減少している。

4) 紙資源 (コピー用紙)

目標 244.21 枚/人 に対し、253.97 枚/人となり、目標達成率 96.16% と目標をクリアできなかった。

実績値としては、309,000 枚 → 320,000 枚と前年比 103.56%と増加している。

会議等の配布資料を電子媒体に移行させる取り組みは継続しているが、結果としての改善が目に見えてきてない。

現在は、コピー用紙の使用量を購買量で計測しているが、複合機のカウンタを調査することで実際の使用量を計測することで何か改善のヒントを得られるようであれば、計測方法を複合機のカウンタに変更することを検討する。

5) SDGs への取り組み

注力する項目と具体的な紐づけを社員に周知することを継続して実施。
適度な休憩と喫煙回数・量を抑制するため、休憩時間の変更を実施した。
健康経営優良法人の認定を目指したが、実現していない。

6) その他

太陽光発電システムの導入・増設、EV導入による CO2 排出量削減のとりくみにより
新潟県環境賞 カーボンゼロ部門 を受賞した。

(<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kankyoseisaku/2023niigatakenkankyousyousyousya.html>)

5. 環境経営計画と評価

本年度の環境経営計画と評価を下表に記す。

作成日：2023年5月1日 作成者：藤井達也

評価日：2024年5月1日 評価者：藤井達也

環境目標項目	取組内容	担当部署/場所	評価
1) 二酸化炭素排出量の削減			
購入電力量	不要な照明の消灯（始業前、休憩時、就業後、トイレ等）	全部署	○
	人感センサー式の照明導入（トイレ等）	管理課	○
	空調温度管理の徹底（冷房：28度、暖房：20度）	全部署	△
	OA機器（複合機、パソコン等）を省エネモードにする。	全部署	△
	不要時（休日）コピー機の電源をOFF	全部署	○
	未使用機器はコンセントから抜く	全部署	○
	設備のアイドリング時間短縮、非稼働時の設備電源の停止	製造部	○
	コンプレッサを適正圧力で運用する	製造部	○
	コンプレッサからの配管等で漏れがないか注意	製造部	○
	デマンド監視警報メール受信時に、不要不急の空調・換気装置を停止	管理課	—
	太陽光発電システム拡張を検討	管理課	○
ガソリン・軽油	省エネ運転（エコドライブ）を心掛ける。	全部署	○
	省エネ車両導入を検討（EV、V2H）	管理課	○
灯油	洗いや油の節約（流しっぱなし作業をしない等）	製造部/事務所	○
	冬場の無駄なストーブ暖房に気を付ける	全部署	○
太陽光発電システム運用	購買電力、発電量をモニタリングし、デマンド契約の見直しを検討する。	管理部	○
空調機システム	季節、天候、気温等に応じた空調温度調整を心がける。	全部署	○
	扇風機、サーキュレータの併用による空調負荷低減を図る	全部署	○
	古い空調機のリプレースを検討	管理課	×
2) 水使用量の削減			
水道使用量	節水の推進（流しっぱなし作業をしない等）	製造部	○
	使用量監視をこまめにし、漏水の早期検知と対応を図る	管理課	○
3) 廃棄物量の削減			
一般廃棄物量	分別を徹底する	全部署	○
	段ボールをリサイクル回収業者へ出すことを徹底する	全部署	○
産業廃棄物量[廃油]	設備に応じた適正な交換時期を見極めて潤滑油交換を実施	製造部	○
4) コピー用紙使用量の削減			
コピー用紙使用量[A4]	不要な印刷、コピーをしないよう気を付ける	全部署	○
	両面コピー、縮小コピーを心掛ける	全部署	○
	裏紙の再利用を心掛ける	全部署	○
	データによる配布（PDF形式でメール）を心掛ける	全部署	○
	経理システムのDX推進（Freee導入）による紙面削減	管理課	○
5) SDGsへの取組み			
教育・周知	社内セミナーを実施し、従業員へ周知する。	管理部	○
	外部セミナー受講（安全衛生委員会メンバーを中心に）		○

注）評価欄には ○、△、×の3段階での評価を記載。

○：良くてきた △：やや不十分 ×：できなかった —：事象なし

6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

(1) 次年度の取組み

2023 年に設定した3年度分の目標値(2023、2024、2025 年度)と 2023 年度の実績数値、および 2023 年度に導入した加工設備の稼働と 2024 年度8月よりビジネスソリューション課でのトレーラーホテル事業開始を勘案して、2024 年度の目標値を下記の通りとする。なお、購入電力に関わる排出係数は 2022 年度の値を採用する。

1) 二酸化炭素排出量

CO2 排出係数を 2019 年度から 2022 年度の値に変更する。

そこで 2022 年度の排出係数で計算し直した値、1.0464 kg-CO2/千円を 2023 年度の実績値として考える。

2024 年度は、パレットチェンジャーを利用した長時間稼働を増やすことで、加工高と電気使用量がともに上昇することが想定される。

また、比較的小ロットの受注が増加すると想定され、原単位での悪化が考えられる。

これらを踏まえた上で、目標値を前年実績維持の 1.046 kg-CO2/千円とする。

2) 水使用量

全社に節水を呼びかけていく。

新事業のトレーラーホテル事業の開始で使用量の増加が見込まれるが、目標値を前年実績維持の 0.85 m³/人として節水に努める。

3) 廃棄物量

①一般廃棄物（普通ごみ）

分別の徹底、段ボール、コピー用紙などのリサイクル分別を全社に呼びかけていく。

目標値は前年実績維持の 8.49kg/人とする。

②産業廃棄物（廃油）

引続き、設備に応じた適正な交換、追加補給を製造部に依頼し、大量入替による影響については、従前の通り、製造部からの報告、推移データ等をみて、必要に応じて対策を検討する。

目標値は、前年実績維持の（16.52mL/千円）とする。

4) 紙資源（コピー用紙）

節約方法を周知、提案しつつ節約を全社に呼びかける。

目標値は、前年度目標値と同じ 244.21 枚/人とする。

5) S D G s への取組み

注力する項目と具体的な紐づけ（下表参照）を引き続き全社員に周知する。

また、健康経営優良法人の認定取得への取組みを進める。

3. 健康と福祉	医療関連部品の売上向上
	社員の健康診断結果のC判定を低減する
	残業時間低減
6. 安全な水とトイレ	浄化槽管理の徹底
7. クリーンエネルギー	エネファーム関連部品の売上向上
	太陽光発電設備の導入・運用
	社用車にE V 導入を検討
8. 働きがい経済成長	売上向上、給与向上
9. 産業と技術革新の基盤	共同開発による水素発生装置の開発、製造
12. つくる責任・つかう責任	素材のリサイクル率向上
	廃棄物量低減

6) 新潟工場について

2018年3月より稼働した新潟工場については、順次事業規模を拡大させてきているが、環境数値に大きな影響を与えるほどには成長していない。

また、PPAサービスを導入したこと、大型加工機のMAG3を停止させていること、受注量、加工量が安定しているとは言えない状況であることから目標値の設定が難しいので目標値を定めず、引き続き、佐渡工場と同様の環境関連データの収集と監視を行うにとどめる。

E A 2 1 の認証については当面の間、本社・工場のサイト認証とする。

7) その他

- ・太陽光発電設備を強化した結果を経過監視して、デマンド契約の見直しを検討する。
- ・補助金等の利用を前提に、蓄電設備（V2H等）の導入、E V の追加を検討する。

(2) 環境経営目標

前記を踏まえ、次年度以降の環境経営目標を以下の通りとする。

なお、目標値は年度ごとの達成状況、事業業績、事業予測等を勘案し、年度ごとに目標値を再設定する。

作成日：2024年5月1日

作成者：藤井達也

環境目標項目	単位	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
		実績	目標	目標	目標
1) 二酸化炭素排出量の削減			前年実績維持	目標値維持	目標値維持
加工高千円当り二酸化炭素排出量	kg-CO2/千円	1.0707	1.0707	1.0707	1.0707
二酸化炭素排出量	kg-CO2	842,522			
購入電力量	kWh	1,738,109			
ガソリン	L	8,684			
軽油	L	216			
灯油	L	1,273			
2) 水使用量の削減			23年度当時目標	目標値維持	目標値維持
1人当り水道使用量	m/人	0.85	0.85	0.85	0.85
水道使用量	m	1,028			
3) 廃棄物量の削減			前年実績維持	目標値維持	目標値維持
1人当り一般廃棄物量	kg/人	8.49	8.49	8.49	8.49
一般廃棄物量[普通ごみ]	kg	11,670			
			前年実績維持	目標値維持	目標値維持
加工高千円当り産業廃棄物量	mL/千円	16.52	16.52	16.52	16.52
産業廃棄物量[廃油]	L	13,000			
4) コピー用紙使用量の削減			23年度当時目標	目標値維持	目標値維持
1人当りコピー用紙使用量	枚/人	244.21	244.21	244.21	244.21
コピー用紙使用量	枚	320,000			

注1) 電力の排出係数は東北電力 2022年度 0.471kg-CO2/kWh(調整後排出係数)を使用。

(3) 環境経営計画

前記の目標を達成するために、次年度の環境経営計画を以下の通りとし、活動する。

作成日：2024年5月1日

作成者：藤井達也

環境目標項目	取組内容	担当部署/場所
1) 二酸化炭素排出量の削減		
購入電力量	不要な照明の消灯（始業前、休憩時、就業後、トイレ等）	全部署
	人感センサー式の照明導入（トイレ等）	管理課
	空調温度管理の徹底（冷房：28度、暖房：20度）	全部署
	OA機器（複合機、パソコン等）を省エネモードにする。	全部署
	不要時（休日）コピー機の電源をOFF	全部署
	未使用機器はコンセントから抜く	全部署
	コンプレッサを適正圧力で運用する	製造部
	コンプレッサからの配管等で漏れがないか注意	製造部
	デマンド監視警報メール受信時に、不要不急の空調・換気装置を停止	管理課
	太陽光発電システム拡張を検討	管理課
ガソリン・軽油	省エネ運転（エコドライブ）を心掛ける。	全部署
	省エネ車両導入を検討（EV、V2H）	管理課
灯油	洗い油の節約（流しっぱなし作業をしない等）	製造部/事務所
	冬場の無駄なストーブ暖房に気を付ける	全部署
太陽光発電システム運用	購買電力、発電量をモニタリングし、デマンド契約の見直しを検討する。	管理部
空調機システム	季節、天候、気温等に応じた空調温度調整を心がける。	全部署
	扇風機、サーキュレータの併用による空調負荷低減を図る	全部署
2) 水使用量の削減		
水道使用量	節水の推進（流しっぱなし作業をしない等）	製造部
	使用量監視をこまめにし、漏水の早期検知と対応を図る	管理課
3) 廃棄物量の削減		
一般廃棄物量	分別を徹底する	全部署
	段ボールをリサイクル回収業者へ出すことを徹底する	全部署
産業廃棄物量[廃油]	設備に応じた適正な交換時期を見極めて潤滑油交換を実施	製造部
4) コピー用紙使用量の削減		
コピー用紙使用量[A4]	不要な印刷、コピーをしないよう気を付ける	全部署
	両面コピー、縮小コピーを心掛ける	全部署
	裏紙の再利用を心掛ける	全部署
	データによる配布（PDF形式でメール）を心掛ける	全部署
5) SDGsへの取組み		
教育・周知	社内セミナーを実施し、従業員へ周知する。	管理部
	外部セミナー受講（安全衛生委員会メンバーを中心に）	

7. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規は「法規制等要求事項一覧表」に取りまとめ、順守状況を確認・評価した。確認の結果、環境法規に係る違反はなかった。また、環境に関する苦情、訴訟、行政機関からの指導もなかった。

該当する主な環境関連法規は下表の通り。

法規制などの名称	要求事項	結果
水質汚濁防止法	事故時の処置（貯油施設）	○
浄化槽法	設置届出、設置後検査 保守点検、定期点検	○
廃棄物処理法	事業活動に伴う産業廃棄物及び 一般廃棄物に対する規制の順守	○
容器包装リサイクル法	事業者及び消費者の責務	○
家電リサイクル法	製品の長期使用 小売店への引渡し費用支払 事業者及び消費者の責務	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引渡と費用負担義務	○
佐渡市ごみの分別ガイドブック	事業活動に伴う産業廃棄物及び 一般廃棄物に対する規制の順守	○
フロン排出抑制法	フロン類管理義務	○
新潟県生活環境の保全等に関する条例 （騒音）	騒音規制基準の遵守	○
新潟県産業廃棄物等の 適正な処理の推進に関する条例	産業廃棄物処分委託先の確認	○

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

作成日：2024 年 5 月 10 日

作成者：佐渡精密株式会社 代表取締役 末武 和典

1) 環境経営目標の達成状況

EA21 の取組みによって、CO2 排出量の原単位を低下させてきており、2023 年度はコピー用紙使用量以外の項目について目標をクリアすることが出来た。しかし、コピー用紙使用量については目標未達成が続いており、2023 年度も目標をクリアすることが出来なかった。そこで、目標未達成のコピー用紙使用量については、複合機の使用ログを調査し、部門ごとの傾向等を分析して削減に繋がる施策を検討する。

2) 環境経営計画の実施状況

上記の通り、1 項目で目標未達となっているが、エコアクション 2.1 のガイドラインに沿った環境への取組みは概ね適正に行われていると評価する。

3) 環境法令等の順守状況

法令順守を確認。

環境法令順守は出来ており、引き続き、「法規制等要求一覧表」「法規制値管理表」「パフォーマンス管理表」にて管理する。

4) 環境経営方針、目標、計画および実施体制の変更検討

環境経営方針の改訂を行う必要はなかった。

2024 年度の環境活動は、2023 年度までの実績を踏まえた 環境経営目標・計画となるようにする。（「6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画」を参照。）

組織の変更に応じて実施体制の変更を行う必要はなかった。